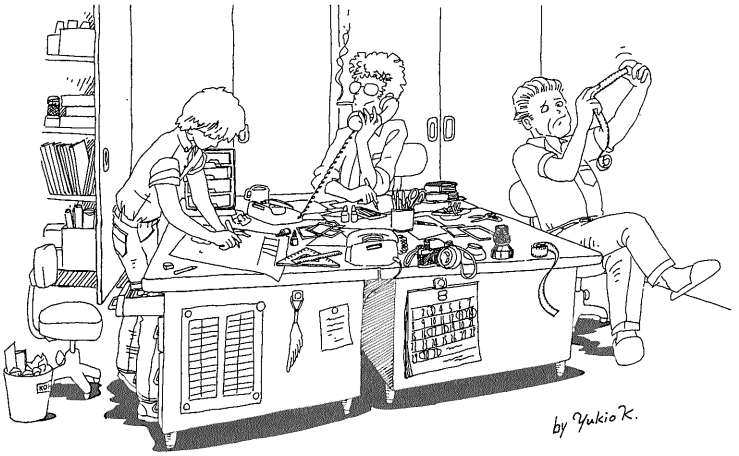

編集後記

《地質ニュース編集委員会》が"100周年記念号"の出版について初めて意見を出し合ったのは 1981年3月25日のことであった. そして同年5月21日の編集委員会の会合で 編集内容の細部をつめるための小委員会がつくられ 3名の小委員が選ばれた. 以来 編集委員会とその小委員会は この"100周年記念号"の編集が完了した1982年5月21日までの間に合計15回の会合を重ね 記念号としての編集方針の確定から掲載項目の小区分にもとづいた各委員の仕事の分担 外部依頼原稿のテーマと執筆者への依頼などを協議し 行動して かなり忙しかった.

「この特別号を100周年にふさわしいものにしょう」ということと 「今までの周年記念号にみられなかった斬新な組みたてかたと内容にしよう」ということが編集委員会のコンセンサスであったが 個個の項目 とくに外部依頼原稿のテーマは意見が多く その取り扱いについても議論がくりかえされて 小委員会に提案内容の再検討・再再検討が要求される場面は決して少なくなかった. 外部の3名の方々に将来の夢を含めて書いていただくことになり それぞれひき受けてくださったときには 実のところ編集委員一同ホッとしたというのが"かけ値"のない 本当の気持であった. 書かれた内容については執筆者の立場を尊重するということに落着いた.

それぞれの研究部や共同研究で結び合った2・3の研究部による総括的な紹介は 「将来像を必ず含めて」という注文つきのものであったが この注文に答えるために執筆者はそれぞれ相当苦労されたようである. なかには 力あまって予定紙数の2倍をこえる原稿を出された方々もあり 小委員と執筆者との間で言葉はやわらかでも中味の激しいやりとりもあった. 予定紙数を守るという鉄則があったので 紙数超過の部分を通常の号に回すことによってきり抜けたが 各研究のトピックスとしてそれぞれ2ページしか与えられていない部分でも「もう1ページよこせ」 「いや 駄目だ」の押問答が少なくなかった.

この"トピックス"は 決して仕事の優劣の規準のようなものから採用されたといった記事ではない. ある部では"トピックス"が部の全員参加の会合で選びだされ また或る部では当該部出身の編集委員が募集要項をプリントし 一人一人の部員に渡して公募したようなわけで 編集委員会が"トピックス"のテーマの選び方まで注文をつけるようなことはなかったのである.

編集が終ってみると この"100周年記念号"がどのような感想を生むかも気になるところである. 皆さんの御意見・御感想をお待ちする次第である.

《地質ニュース編集委員会》

委員長	沢 俊明
委員	坂本 亨(小委員)
〃	黒田和男(〃)
〃	岸本文男(〃)
〃	井上英二
〃	野田徹郎
〃	福田 理
〃	津 宏治
〃	倉沢 一
〃	三村弘二
〃	鈴木泰輔
〃	三上テル子
事務局	山本洋一
	河村幸男

地質ニュース 第337号 9月号
定価 ¥1,350 〒実費
昭和57年9月1日 発行
編集 工業技術院 地質調査所
発行人 林 久 雄
発行所 株式会社 実業公報社
印刷 東京都千代田区九段南4の2の12
Tel. (03) 265-0951(代表)
振替口座東京 32466
総発売元 株式会社 実業公報社 出版事業部

©1982 Geological Survey of Japan